

CFOzine

会員特典 WHITEPAPER | CFOZINE.JP

S/4HANA移行 方式とスコープの判断

2027年問題に、何を・どう決めるか

本ガイドの構成

- 01 2027年問題のタイムライン
- 02 3つの移行アプローチ比較
- 03 スコープの線引き（作り変えvs固定）
- 04 延命か、経営管理の作り変えか
- 05 移行の進め方（意思決定の順序）

2027年問題

SAP ERPの標準保守は2027年末に終了 — 残り時間から逆算する



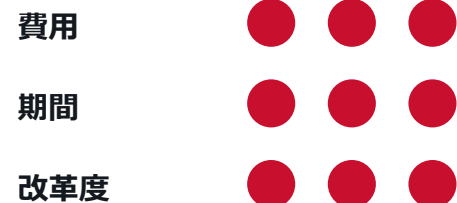
締め切りは動かない。いつ・何を決めるかを、2027年末から逆算する。

方式の比較

3つの移行アプローチ — 「建て替え／リフォーム／いいとこ取り」

新規構築 Greenfield

(更地に新築)



向くケース

業務を作り直し経営管理を刷新

コンバージョン Brownfield

(リフォーム)



向くケース

現行を活かし期限対応を最優先

選択的移行 Selective

(いいとこ取り)



向くケース

一部を刷新し残りは引き継ぐ

● = 大きい（費用・期間・改革度）。期限が厳しければコンバージョン、経営管理を刷新するなら新規構築。

■ 作り変える or 固定

スコープの線引きが、次の10年の資本効率を決める

移行スコープの設計図

CFOが引く線

作り変える領域

勘定科目体系（FS版）

締め設計・決算プロセス

収益性分析（CO-PA）

10年そのまま固定

組織構造（会社コード等）

標準で足りる業務

アドオンの最小化

経営管理に効く領域は作り変え、効かない領域は標準のまま固定する。

判断

延命で終わるか、経営管理を作り変えるか — 移行の使い方

延命 | 保守切れ対応だけ

・現行業務をそのまま移す

・アドオンを温存する

・決算・締めは現状維持

・10年そのまま固定

→ 次の10年の資本効率は変わらない

作り変え | 経営管理を高度化

・収益性分析を作り込む

・科目・締めを設計し直す

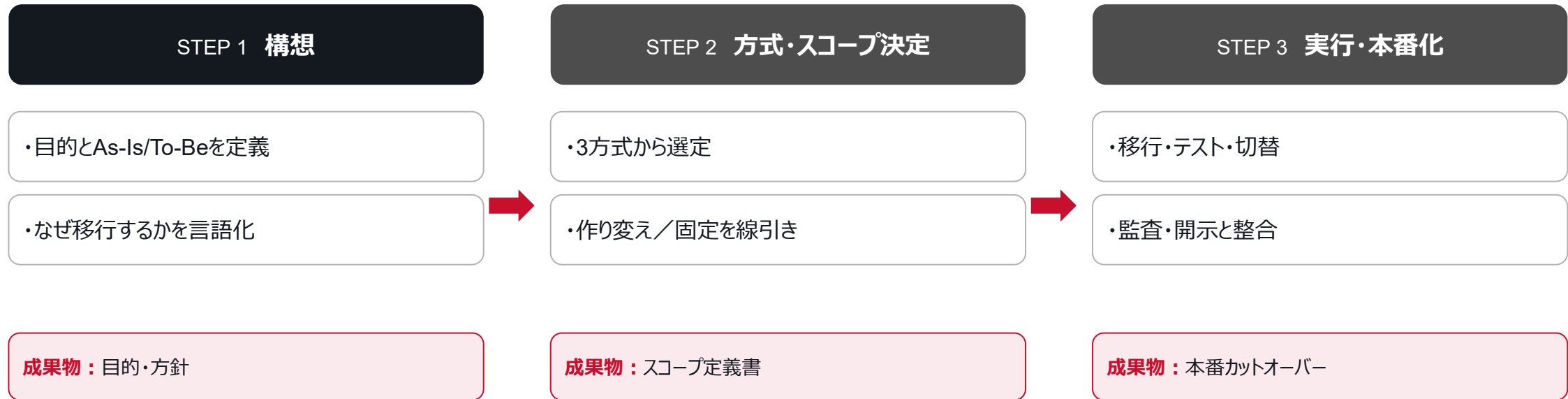
・標準に寄せ保守を軽く

・決算早期化を同時に実現

→ 次の10年の資本効率を上げる

意思決定の順序

移行の進め方 — 2027年末から逆算して、順に決める



ポイント： 方式とスコープを先に固める。アドオン棚卸しの結果がスコープを左右する。